

## 2022年11月 千葉公園「自然観察会のお知らせ」

日時：2022年11月12日（土）10時00分～11時30分（90分）

会場：千葉公園 〒260-0045 千葉市中央区弁天 3-1 電話：043-251-5103

集合：蓮華亭 受付9時45分から

内容：植物・昆虫・水鳥の観察会・落ち葉の絵画展

①イチョウ（いちょう科） 参加賞：竹とんぼ ④

黄葉した葉っぱを使ってキツネ・ウサギづくり

②ユリノキ（もくれん科）

種子が回転しながら落下するよ。黄葉した葉はTシャツの形

③ツワブキ（きく科）

鮮やかな黄色の花が遠くからでも確認することができます

④ヒメウラナミジャノメ（たてはちょう科）

表はジャノメ模様で、裏は波打つ模様のチョウが飛んでいます

⑤ジョロウグモ（じょろうぐも科）

大きなクモの網が見られます。網の構造を調べ、クモのようすを観察します ⑥

⑥大木の保護は遺伝子の保全 都市公園で競技用自転車が走る意味はなんですか？

大木が切り倒され、松枯れのアカマツが4カ月も放置されている現状をどう思う？

持ち物：自然観察ができる服装と靴・タオル・飲み物・おやつ・図鑑（植物・昆虫・野鳥など）

防寒具・カメラ・双眼鏡・敷物・帽子・雨具・筆記具・虫眼鏡・採集袋・防虫対策を！

お話し：亀井 尊（日本自然保護協会・自然観察指導員）

安全対策：1. マスクを着用して、公園の自然に親しみます。

2. 寒暖差の対策と水分補給を忘れないこと！

3. 植物採集、昆虫採集はできません。

4. 植物のトゲや毒をもつ昆虫には注意しましょう。



【イチョウの葉を使った動物】

時間配分

10:00～10:10 蓮華亭にて挨拶・資料配布・今月の自然解説

10:15～11:15 綿打池を時計回りで移動し展望台、市民プール近くまで行き、戻ります。

①11月に咲く花の観察

②落ち葉の絵画展と葉っぱ遊び

③ジョロウグモの観察

④綿打池で見られる水鳥の観察

11:20～11:30 今日の観察会を振り返って。

来月の予定 12月10日（土）10:00～11:30

### 《観察のポイント》

1. 晩秋の千葉公園は木々の葉が緑から黄・赤・茶とさまざまな装いをして私たちを迎えてくれます。イチョウの黄葉は快晴の空に映え、落ち葉を拾い集める子どもたちも嬉しそうです。
2. Tシャツの形をした葉っぱが黄葉し、枝には大きな茶色の実がついて、まるで花のようです。地面にはその種子が回転して落ちてきたように見えます。5月に観察した花は素敵でしたね。
3. 花の少ないこの時期、黄色い花は遠くからでも目立ちます。モノレール下の土手に咲くツワブキを観察してみましょう。つやのあるフキのような葉なので「ツワブキ」と命名されました。
4. 四季折々に美しい花が咲き、その花に昆虫が蜜を求めて集まってきます。ヒメウラナミジャノメが見られる環境はとても貴重です。私たちがこの環境を守り、次世代に繋げていきましょう。
5. 大きなクモの巣が木々の間にかかっています。中心に大きなクモがいて、小さなクモは端っこにいます。網を横から見ると3つの層になっていて、後ろの網には何か引っかかっています。
6. 公園内の木が切り倒されています。理由としては樹齢が70年以上の老木であったり、強風で倒れたり、病害虫により枯れてしまうなどです。これからは植樹をして自然を回復する時です。

主催：NPO法人 ちばサイエンスの会 連絡先 090(3503)6059（亀井）

## 千葉公園の自然（花・草・鳥・昆虫など）に親しむ

晩秋の季節を迎えましたが、暖かい日々が続いています。エジプトのシャルム・エル・シェイクでは地球温暖化対策を話し合う COP27 が開催されています。綿打池にはキンクロハジロが飛来するようになり、11月1日に6羽、5日に12羽と数が増えてきました。

千葉公園の自然が急速に失われつつあることを憂えています。枝葉が伸びすぎたというだけで根こそぎ伐採するのではなく、徒長枝を剪定すればいい樹木もあります。それが元気なマテバシイやケヤキなどが理由もなく消えていきます。また、公園管理事務所が撤去されてからは草花の管理もずさんな状態です。そして今年も公園内を競技用自転車が走り、親子、子どもたちを締め出します。なぜ都市の公園を利用しなければならないのでしょうか。走行後には、今年も斜面の土壌や草木が破壊された状態でした。経済優先のイベントを容認する市政は、本来の公園の機能や役割を真剣に考えているのでしょうか。環境問題を軽んじ、身近な自然や子どもたちの自然教育活動を軽視するようであるならば将来に希望が持てませんね。地球環境が大きく変化しつつある今こそ環境保護の重要性が高まっているのに。SDGs は子どもでも理解し行動計画を立て実行しています。2030 年まであと 8 年です！

### 《11 月の自然観察》

#### 1. イチョウ（いちよう科） 漢字表記では「公孫樹」

イチョウの黄葉が遠くからでもわかるようになりました。晩秋のこの時期には木々の葉が色づき、公園内はカラフルなし自然の美しさに変貌しています。大木の周辺にはギンナンの実も落ちて、自然の移りゆく姿を見ることができます。黄葉した葉を拾ってウサギやキツネの動物を作ってみましょう。《作り方》

- ①黄葉した葉にマジックで線を入れて、ハサミで切ります。
- ②葉の中央部に小さな穴を入れて、葉柄を差し込みます。
- ③葉に目などを入れて完成です。



【マジックで線を入れる】【ハサミで切る】【葉の中央に穴を開け葉柄を挿入】【目を入れて完成】

#### 2. ユリノキ（もくれん科）の黄葉と実 別名：ハンテンボク（*Liriodendron tulipifera*）

ユリノキの果実は翼をつけた種子が約 70 本集まっています、花の蕾のようにも見えます。秋が深まるにつれて一つ一つの種子が回転しながら風に乗って飛んでいきます。種子はコルク質で、膨らんだ部分に種子が一つ入っています。

5月の観察会ではチューリップのような美しい花を観察しましたね。高い所に咲いているので残念ながら気づかないようです。葉っぱTシャツのようですが、昔風に言えばはんてんの形です。



【はんてんに似た葉】 【種子の数は 70 近くあり、回転しながら落下】【5月中旬に咲く花】

#### 3. ツワブキの黄色い花（きく科）

この時期、黄色い鮮やかな花と光沢のある丸い葉がモノレール下の土手で見られます。海岸でよ

く見かける植物ですが、何という植物ですか？

海辺の岩場に生えている常緑の植物ですが、最近はお観賞用として庭に移植して育てられています。晩秋の頃に花径を出し、上部で枝分かれをして、鮮やかな黄色の頭状花をつけます。この植物名はきく科の「ツワブキ」です。葉柄はキャブキにされます。また、昔から家庭治療薬として、腫れ物、切り傷、打撲などには葉を火であぶり、薄皮をはがして幹部にはり治療しました。虫刺されの応急処置には、葉をよくもんたしぼり汁をぬるとかゆみや腫れがひきます。

4. ヒメウラナミジャノメ (たてはちょう科) 食草：ススキ・チヂミザサなどのイネ科  
珍しいチョウが花の蜜を吸っています。金環の模様が「蛇の目」に見えます。表側には上の羽の一つずつ、下翅に二つずつ、そして、翅を閉じたら波の模様がみられ、上の翅には金環が一つ、下の羽には5つも。そのデザインにビックリします。小型のチョウで「ヒメウラナミジャノメ」といいます。お花畑で吸蜜中の写真です。



【翅を広げたところ、閉じたところの金環】

5. ジョロウグモ (じょうろうぐも科) 三層構造の大きな円網をつくる  
ジョロウグモの大きな網が道の真ん中で青空に向かって伸びています。網の中央には大きなメスグモがドカンと強烈な存在感をしめし、そばには枯れた葉っぱなのか脱皮した残りのものなのかがみられます。よく観察してみると小さなクモもいます。オスのようです。



大きな網には2~3mmのたくさんの小さな虫がついて、それが芸術的な絵となって見ることができます。メスの特徴は腹部背面に特徴的な黄色に水色の縞模様があります。脱皮はメスが8回、オスが7回です。

6. どうして木々が伐採されるの？ 植林はしないの？

千葉公園内に植栽された樹々は戦後 77 年を迎えてかなり老木が目立つようになりました。また 2019 年 9 月と 10 月の台風によって倒木被害や地球温暖化の影響によりナラ類の樹木が枯れはじめコナラの大木が 2020 年夏に伐採されました。2022 年 7 に荒木山のアカマツがマツノザイセンチュウに侵され枯れてしまい、4 カ月経った今も醜態をさらけだしています。さらに意味もなくニワウルシやケヤキ、クスノキの大木を伐採するという看板が立ち始めました。理由は老朽化のためとか。植樹をせずに、年間に二桁の数で大木が切り倒されている状況です。ここ数年の間に千葉公園周辺の開発が急速に進み、公園とは名ばかりで経済効率を考えた都市型の公園へと変貌しつつあります。



子どもが遊び、親子で昆虫採集や木の実・落ち葉拾いなど自然に親しみ、市民が自然を通して憩える本来の公園のあり方が変わりつつあります。

11 月に公園内で自転車競技が行われ、多くのキッチンカーが店を広げていました。これによって公園利用者は締め出され、公園内の自然は確実に痛めつけられていました。行政は公園施設の利用法や自然環境保全の立場から、未来を担う子どもたちに配慮した政策を考えて欲しいものです。



【自転車競技の看板】



【この遺伝子が重要】

《11月》 千葉公園の自然風景（花・草・鳥・昆虫など）

【①】ケヤキ



①イチョウの幹にプレートがつけられています。大木の側には実がたくさん落ちています。

【②】ユリノキの黄葉と実



②はんてんの形をしたユリノキの葉、6月にはチューリップのような花が咲きました。

【③】ツワブキ



③黄色い花が土手の斜面で輝きます。葉に薬効があり虫刺されや打撲などに利用されました。

【④】ヒメウラナミシジャノメ



④珍しいチョウのヒメウラナミシジャノメの吸蜜 蛇の目がいっぱい（裏前翅1つ・裏後翅5つ）

【⑤】ジョロウグモの雌雄



⑤ジョロウグモの巣の中心に大きなメスとそば 小さなオスがいます。網にはゴミと小さな虫

【⑥】老木の伐採「ニワウルシ」？



⑥シンジュの巨木は天まで届く勢い。この遺伝子を保存したいのにどうして伐採するの？